

## 二つの“じりつ”

「子育ての目的は…？」と尋ねると、「明るい子にしたい」「心が豊かな子に育てたい」「思いやりのある優しい大人になって欲しい」また「英語ぐらいは話せる人間に」などの答えが返ってきます。また、世相を反映してか「いじめられない子に」や逆に「いじめっ子にならないように」などの声も聞かれます。これらは親の願いであって目的ではありません。

子育ての目的は、子どもの「自立」です。

自分で、朝起きて、着替えて、ご飯を食べて、トイレに行って…という身体的自立。

物事に興味を持ち、挑戦し、成果を得て自信を持ち、自分らしさを持つ…という精神的自立。

したい・できる仕事を選択決定して、継続的にお金を得る…という経済的自立。

これらが「自立の三本柱」です。

でも、中には勘違いの「自立」もあります。

自信は精神的自立にとって大切な要素ですが、自分の努力だけでやり遂げた…というのは過信ですから、もう一步前進が必要です。自分独りでやり遂げたように思われたことも、実は多くの他者の協力やめぐり合わせがなくては出来ません。

「おかげさまで」「情けは人のためならず」など、感謝や思いやりの気持ちを持つことも本当の「自立」の大切な要素です。

また、「お金を稼げること=成功」の構図が、経済的自立のように思われがちですが、それだけでは「自立」と言えません。「お金を得るためなら何をしてもいい」「自分で稼いだ金だから何に使ってもいい」など、一生懸命に努力する姿勢、その成果に対する自分へのご褒美などは大切かも知れませんが、その行為や態度を不快や迷惑に感じている人はいないか…という周りへの配慮が欠けていれば、一人よがりの「自立」です。

自分がされて嫌なことは、人にしないのは当たり前。さらに踏み込んで、自分がされて平気なことでも、人はそうでないかも知れない、と相手の気持ちを察する感受性が重要です。

人は基本的に「自己中心的」です。自分の欲することをしたいのが人間です。そのために「自立」を目指します。しかし、環境とのバランスを取るために我慢をする必要が出てきます。それには、自分で自分を律しコントロールする力、つまり「自律」が必要です。

子育ての目的は子どもの「自立」と「自律」、二つの「じりつ」です。